

福祉サービス第三者評価結果

事業所名 大庭保育園

発効：平成 21 年 3 月 25 日（平成 24 年 3 月 24 日まで有効）



社団法人神奈川県社会福祉士会
福祉サービス第三者評価

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

事業所基本事項

フリガナ	シャカイフクシホウジン メグミフクシカイ オオバホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	社会福祉法人 めぐみ福祉会 大庭保育園
事業所住所 最寄駅	〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤732番地 9 JR 東海道本線 神奈川中央交通バス滝の沢停留所下車・徒歩3分
事業所電話番号	0466-87-1795
事業所FAX番号	0466-88-9208
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 川口和子
法人名及び 法人代表者名	法人名 社会福祉法人めぐみ福祉会 法人代表者氏名 川口美智代
URL	http://www18.ocn.ne.jp/~oba540
e-mail	megumi540oba@gaea.ocn.ne.jp
問合せ対応時間	午前10:00～午後5:00

事業所の概要1

開設年月日	昭和54年4月1日
定員数	125名
都市計画法上の用途地域	市街化区域
建物構造	鉄筋コンクリート造り2階建て
面積	敷地面積(1320)m ² 延床面積(845.61)m ²

事業所の概要2(職員の概要)

総職員数	37名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長(1名) 保育士(29名:常勤20名、その他9名) 保健師・看護師(0名) 栄養士(2名) その他(事務員等 3名 調理員 2名) 平成21年2月現在

事業所の概要3(受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後5ヶ月～小学校就学未満	
延長保育の実施	有	備考:
休日保育の実施	無	備考:
一時保育の実施	無	備考:
障害児保育の実施	有	備考:
病後児保育の実施	無	備考:

保育の方針

明るく元気な子ども ー心と体を育てるー ・健康なからだを持つ子供を育てる ・みんなと仲良く遊べる子供を育てる ・自主積極性のある子供を育てる ・ものごとに素直な感動をもてる子供を育てる ・おもいやりのある子供を育てる

社団法人神奈川県社会福祉士会 第三者評価結果

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

優れている点・独自に工夫している点：

職員が手厚く配置され、特に配慮の必要な子どもに対する専任保育士の配置や、乳児クラスの担当制など、一人ひとりの発達状況に応じたきめの細かい保育が行われている。

運動保育研究所による「運動遊びカリキュラム」を、毎月、年齢に応じて指導計画に取り入れ、実施している。子どもたちの発達状況や季節に合った運動を行っている。また、園の開設時より、健康増進のために、幼児の乾布まさを取り入れている。

園の開設時より、4、5歳児用の園専用の畑と、3歳児用の園庭のプランターを利用して、栽培・食育年間計画表に沿って、じゃが芋やトウモロコシ、大根等を栽培している。生長の様子を観察したり、水やりや草取り、お泊り会のカレー作り等のクッキングを通じて、食育に取り組んでいる。

避難訓練を毎月、行っている。各クラスには、非常時の避難地区割り表と担当保育士名が掲示されている。非常時の避難地区は3ヶ所あり、それぞれ、黄・紫・緑で色分けされている。子どもたちの防災頭巾にも地区別のカラーが縫い付けられており、意識付けが行われている。9月には、地域別に保護者への引渡し訓練を実施している。昨年、避難用の滑り台が設置された。

職員間の情報共有や、保護者への情報提供を目的に、入口や玄関、各保育室の前に、お知らせボードを設置している。乳児の連絡帳や、年2回開催される個人面談、保育参観、クラス懇談会、保護者アンケートを通じて、苦情や要望の早期把握に努め、保護者との連絡、連携やサービスの向上に努めている。

セキュリティ対策として、門は3ヶ所、施錠し、玄関には防犯カメラを設置し、警備会社との契約も行い、安全面に配慮している。0歳児クラスには、オゾン除菌・脱臭器を設置して、流行性疾患の蔓延を予防する取り組みが行われている。事務所に静養室を整備して、AED（自動体外式除細動器）を設置し、非常時に備えている。

保育室や廊下はゆったりとしており、0～2歳児の保育室には畳のスペースがある。2～3歳児のトイレは床暖房の設備がある。

それぞれの発達の段階に応じたカリキュラムで、保育を行っている。5歳児は、就学をひかえて、ピアノカの演奏や書道を、保育の場に取り入れている。

年度末に、一年間の自己評価を行い、問題点、改善点を出し合っている。保育内容については、毎月、カリキュラムの内容を振り返り、保育日誌に日々の反省点を記入している。

評価領域ごとの特記事項

1	人権への配慮	<p>園児や保護者に対する適切な言葉遣いや態度については、「大庭保育園運営規則」や「保育マニュアル『担当者の心構えと接し方』」に定め、年度初めの辞令交付の際や職員会議等で周知し、共通認識を持って、保育に取り組んでいる。</p> <p>「情報管理規定」で個人情報保護の規定を設置し、全体職員会議等で周知している。個人情報の記載のあるものは、事務所等にて、外部の人の目に触れないように保管している。職員間での園児等に関わる連絡は、職員会議あるいは回覧板で部外者の目に触れないようにしている。事例会議でも園児の個人名は出さず匿名とし、配布資料は終了後にシュレッダーにかけ廃棄している。</p>
---	--------	---

2	利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援	家庭との連絡・情報交換は、保育マニュアルで、手段、方法等を定め、連絡帳や園だより、クラスだよりのほか、その日の様子や連絡事項を、玄関等の掲示板に掲載し、一日の保育状況を知らせるなど、連絡を密にしている。 子ども達のより良い成長を目指し、家庭と園とが共通理解し、協力体制を作るために、懇談会、個人面談を年2回、開催している。懇談会ではアンケートをとり、結果をまとめプリント配布している。また、個人面談等とあわせ、アンケートや口頭で意見・要望を聞き、反映できるようにしている。経緯については、保護者の意見・要望台帳にまとめている。
3	サービスマネジメントシステムの確立	子どもが触れるおもちゃ、タオル、布団、砂場等の物品の除菌・消毒、遊具の安全保持の管理については、「保育マニュアル『保育における清潔、清掃、安全』」に管理方法等を定め、点検実行記録をつけて、衛生面、安全面の管理に努めている。 防犯・防災対策については、防犯訓練、防災訓練を実施し、全体職員会議で反省と見直しを行っている。また、年度末の職員会議にて、それぞれの職員が役割を分担し、細部を検討し周知を図っている。「大庭保育園緊急時対応マニュアル」にて、災害時に保育園の社会的資源を活用して、地域の要請に対応できるように努めている。
4	地域との交流・連携	地域の子育て家庭向けに、「大庭保育園子育て広場年間計画」を作成し、地域の家庭に配布したり、園外掲示板や園内に掲示している。毎月、子育てアドバイザー2名が参加して、母親同士の情報交換や育児相談を行っている。また、園の見学者や電話での相談を受けて、内容によっては、専門機関を紹介したり、交流保育へと繋げている。大庭親子広場では、医師と園長が育児相談を行っている。 職員が地区小学校区の地区学童保育運営委員をし、学校と情報を交換し合っている。特別支援保育に関しては、県総合療育相談センターや市保健センターと情報交換を行っている。
5	運営上の透明性の確保と継続性	保護者から、年2回、アンケートを実施している。また日頃から、書面、口頭で、意見・要望を聞き、反映できるようにしている。年度末には、文書で一年の自己評価を行い、問題点・改善点を出し合っている。保育内容の自己評価は、毎月のカリキュラム反省や、保育日誌で日々の反省の記入をしている。日本保育協会の「保育内容等の自己評価」のためのチェックリストを参考にしている。 保育園の運営や事業内容について、地域から理解が得られるよう、地域の方に向けて、園のしおり等を用意しているほか、ホームページに園の概況を掲載している。また、保護者に保育園での子どもの様子をみてもらう機会として、保育参観があることを、「大庭保育園行事予定表」などで情報提供している。
6	職員の資質向上促進	保育理念や方針については、園のしおり、職員心得、大庭保育園保育目標で示しているほか、保育目標を玄関、職員室等の園内に掲示し、職員会議等で周知して、基本姿勢の共有化を図っている。 外部研修については、「外部研修計画表」により、職員がなるべく平等に受けられるようにしている。内部研修は、前年度末に、職員から内容の希望を募り、園長と主任が協議して、「職員研修計画」を作成している。「職員研修計画」により、原則毎月、夜間研修を行っている。外部研修は、レポートを提出し、全員が閲覧できるようにしている。レポート貸し出しノートにより、いつでも閲覧できるようにして、研修内容を保育に反映できるようにしている。

2. 評価項目に基づく評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価機関が定めた評価項目に添って、調査を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 81 事項） を通してのサービスの達成状況	100%
---	-------------

大項目 1 の内容 (概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い 出生や国籍、性差などによる差別の禁止 子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮 個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制 家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理 洗剤等の危険物の管理 おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理(感染症対策・救急救命を含む)	体調不良児、けがへの対応 感染症への対応 救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理(防災・防犯)	火災や震災等の対応 日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施 地域への情報提供、情報開示 見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施 実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>子どもの情緒の安定をはかるために入所時の慣らし保育を行う。 乳児は担当制を取り入れている。 運動遊びカリキュラムの導入や四季折々の行事に取り組む事で、集団生活の中で友達と育ち合うことを大切にしている。</p> <p><詳細> 入園時は情緒的に不安になりがちで体調を崩す場合も多いため、保護者の勤務状況と相談しながら慣らし保育を行い、保育園生活が無理なく行えるよう図っている。 0才は保育士との信頼関係をしっかり築くために担当制とし、一人ひとりの欲求を充分満たすように保育している。又個別指導計画を立て、発達にきめ細かく対応し保護者とも毎日連絡帳で健康状態などを伝え合っている。 幼児クラスからは運動保育研究所による運動遊びカリキュラムを導入し、体力増進、運動能力の発達を促すため保育内容に工夫を持っている。保育園生活の中で四季折々の行事を通して、友達と新鮮な感動を持ち自信を育み心身の成長へと繋げてゆけるようにしている。</p>	<p>子どもと保育士の信頼関係や、精神的安定を図るため慣らし保育が行われている。慣らし保育は、乳児と幼児それぞれ「慣らし保育日程表」に沿って行われている。(慣らし保育予定表や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>0歳児の担当制は、信頼関係の形成と、きめ細かい対応が行えるように、3対1の体制で行われ、個別指導計画の作成や個人面談も行っている。(保育室の様子や、個別指導計画、連絡帳で確認した。)</p> <p>幼児から、「運動遊びカリキュラム」を年間指導計画、月間指導計画に取り入れている。クリスマス会やどんど焼き、ひなまつりの集い等の、四季折々の行事に関心を持ち、友達との関わり方を学んだり、心身の成長が図れるようにしている。(訪問当日の散歩の様子や、保育日誌等で確認した。)</p>

<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にすることを大切にしている。どのようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>異年齢保育や特別支援保育等で、様々な子と関わりあい育ちあっている。 年間指導計画の中に誕生会や季節の行事を盛り込み、相手の気持ちをくみ取り協力しあったりする機会が持てるようにしている。 保育の中で日常的にあるけんか等のトラブルの場面をとらえて、しっかり保育士が見守り対応したり当番活動や共同製作、集団遊び、グループの活動を行っている。</p> <p><詳細> 毎週土曜日や延長保育又幼児縦割り保育等で異年齢と係わる機会を持ち、個の違いに気づき思いやり等が育つようにしている。発達に問題のある子どもを特別支援保育で受け入れ、様々な個性をもつ友達とも自然に関われるよう図っている。 誕生会、運動会、退園児のお別れ会、卒園児お別れ会等の行事を通して、又年間指導計画にも保育の中で相手を大切に思う気持ちが育つようにしている。 当番活動、共同製作、グループ活動、集団遊び、ごっこ遊び等保育の中で、又友達間のトラブルの場面で自分を受け入れてもらったり相手を受容したりする機会を持っている。保育士との信頼関係を基に励ましや喜びの共感を体験することにより、自信を育て他者をも大切にできるよう個に配慮した保育に努めている。</p>	<p>合同（縦割り）保育や特別支援保育では、お互いの発達の違いを認め合い、助け合っていけるよう取り組んでいる。特別な配慮が必要な子どもも積極的に受け入れて、専任保育士を配置して、きめ細かい対応を行っている。（月指導計画や、保育日誌等で確認した。）</p> <p>日々の保育の場面や誕生会、運動会、お別れ会などの行事を通じて、相手を大切に思う気持ちが育つようにしている。（保育日誌や、年間指導計画で確認した。）</p> <p>子ども同士のトラブルの場面では、保育士がお互いの気持ちを十分に受け止めた上で仲立ちとなり、相手の気持ちにも気付けるようにしている。（保育日誌や年間指導計画等で確認した。）</p>
--	---	---

<p>子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>期待を育てながら当番活動を行っている。 様々な人々、同年齢以外の人と交流する機会をもっている。 地域の人、色々な職業の働く人々と関わりが持てるようにしている。</p> <p><詳細> 幼児クラスでは当番活動をすることで奉仕の心、人に役立つことの喜びを育てるようにしている。 近隣の中学生と毎年交流を持ったり、世代の違う祖父母を招待して一緒に遊んだり会食したりして楽しく交流している。運動会やおみせやさんごっこ、散歩などで異年齢児と常に交流する場面を持っている。 散歩の途中での地域の方へのご挨拶や感謝の言葉をかける事などを場面場面で指導したり、派出所や消防署に見学にゆき質問したりして働く人たちとの関わりを広げている。実際に商店で買い物をしたり店の人とのやりとりを楽しむ機会も持っている。</p>	<p>当番は、2歳児クラスの11月から行われている。最初はみんなの前に出て挨拶をすることから始め、3歳児からは、くらすいいん、かんぷとうばんなどがある。当番の仕事内容は、子ども達が話し合っで決めている。(当番表の内容や、月指導計画、保育日誌等で確認した。)</p> <p>近隣の中学生の家庭科の授業や職場体験での受け入れも行い、交流している。祖父母を招待して、一緒に給食を食べたり、歌をプレゼントして交流している。(職場体験等の依頼文や、保育日誌で確認した。)</p> <p>散歩の途中に地域の人に挨拶したり、地域で働く人に、感謝の言葉を伝えている。(散歩に向う様子や、写真、保育日誌で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しめるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>ごっこ遊びを通して言葉のやりとりを楽しんでいる。 絵本・童話・紙芝居の読み聞かせを通して言葉が豊かになる機会を増やしている。 生活体験の中から共通の話題を広げ、会話の楽しさをしらせている。</p> <p><詳細> ごっこ遊びで子どもが自発的に遊ぶ中、友達同士での会話のやりとりがあり時には保育士が仲立ちとなって言葉を補足したりして言葉の環境を広げている。毎日活動の合間や午睡前、延長保育時などの折々に絵本、童話、紙芝居に触れて言葉のやりとりを楽しんでいる。 休暇中の体験談や行事の思い出について保育士の質問に答えたりしあう機会を持ち、共通の話題の中で会話を楽しむようにしている。</p>	<p>ごっこ遊びを通し、言葉のやり取りや言葉の広がりを楽しめるよう、保育士が仲立ちとなり取り組んでいる。(保育室の様子や、保育日誌で確認した。)</p> <p>毎日の活動の合間や、午睡前、延長保育で、絵本、童話や紙芝居の読み聞かせの時間をもち、言葉のやり取りを楽しんでいる。(保育室の様子や、年間指導計画等で確認した。)</p> <p>生活体験の中から考えたこと、経験したことを相手にわかるように話し、会話を楽しくするようにしている。人の話を聞いたり、聞いてもらうことにより、会話の楽しさや広がりが持てるようにしている。(保育日誌や、児童票で確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>ごっこ遊びを楽しむ中で、相手の話を聞き取り応える体験を広げている。日々の保育の中で紙芝居や絵本に触れている。当番活動の中で全員の前に出て挨拶や言葉かけを体験したり、体験発表をしている。</p> <p><詳細> ごっこ遊びの言葉のやりとりの中で、一方通行でなくきちんと相手の言葉を聞き取り、言葉を返すことが自然に身につくような体験を広げている。生活の中では自分の欲求や思いを言葉で表せるよう保育士が言葉を補うなどして対応している。保育の中で絵本や紙芝居を通して豊かな言葉の世界に触れ、言葉からイメージを広げる喜びへと繋げている。又3才以上児は4月に年齢に合った月刊本を決定し、毎月全員と一緒に絵本に触れている。挨拶の言葉や呼びかけを行う当番活動、行事や休暇の後の体験発表の場面で、伝えたいことが伝わる喜びや期待を持って聞く楽しさを味わっている。</p>	<p>生活体験の中から、いろいろな言葉に興味を持ち、遊びの中でやり取りが楽しめるよう、保育士が言葉を補うなどの工夫をしている。(年間指導計画や、保育日誌で確認した。)</p> <p>言葉の感覚が豊かになるように、保育士が読み聞かせの機会を多く持ち、物語りの理解や想像力が膨らむようにしている。3～5歳児はそれぞれの発達の状況や支援計画に沿った内容の月刊誌を、保育士が選定し、購読している。(保育室の絵本コーナーの様子や、年間指導計画、保育日誌で確認した。)</p> <p>2歳児クラスでは、当番活動で号令を掛けたり、給食の口拭きを配っている。保育士が仲立ちとなつて、小さな声で声掛けしながら、見守っている。5歳児クラスでは、一人ずつ前に出て、夏休みの思い出を発表する機会を作っている。(当番活動の様子や、保育日誌等で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>運動会やクリスマス会、お別れ会等の行事の中で体育遊び、リズム遊び、楽器の演奏、歌や劇遊びの表現活動を広げている。四季を通して自然に触れる機会を持ち色々な素材や自然物の性質を活かした製作や遊びを行っている。コーナー遊びや手作り玩具を使用して身近にいる人になったり、様々な職業の人になったりし見立て遊びができるよう環境の工夫をしている。</p> <p><詳細> 運動会では体育遊具を使つての表現あそびやリズム体操、クリスマス会やお別れ会ではそれぞれの役柄に応じての劇あそび、歌や楽器演奏での音楽表現などに楽しく参加できるようにしている。春はよもぎつみに始まり、桜の花見、夏はプールサイドのどろんこ遊びやペインティング、落ち葉拾いの葉を使用したの製作等自然に触れる中で色々な素材を使った表現ができるよう図っている。見立て遊びやつもり遊びには環境の工夫が遊びの広がりに影響するので、手作り遊具を作り遊びを誘うコーナーの設定を配慮している。</p>	<p>3～5歳児は、デイリープログラムで毎日、体操を行っている。「運動遊びカリキュラム」は、年間予定表に沿って、それぞれの時期に応じた内容が組み込まれている。(年間予定表や、保育日誌で確認した。)</p> <p>園は自然に恵まれた環境にある。4月には、天気の良い日は、ほぼ毎日散歩に出かけて、桜のお花見やよもぎ摘みをして楽しんでいる。夏には、プールサイドでの色水遊びや泥んこ遊び、秋は落ち葉や木の実を集めて製作活動を行っている。(散歩に出かける様子や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>保育室をコーナーで区切り、いろいろなスペースを作っている。保育士によって手作りされたペットボトルやミルクの空き缶を使った玩具で、0歳児が遊んでいる。段ボールを使って手作りされたキッチン台やレンジ等の道具、毛糸、新聞紙を使って、ままごと遊びをしている。(各コーナーの様子や、写真、保育日誌で確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>戸外活動の中で自由な表現活動が展開できるように指導計画を立案し実践している。</p> <p>日常保育の中で絵本や紙芝居等を繰り返し見る機会を持ち、イメージを高めながら言葉や歌、動作を真似たりして友達と一緒に表現して遊んでいる。</p> <p>様々な素材や用具を用意することで創造する意欲を高め、自由に描いたり作ったりしてのびのびと表現できる機会を持っている。</p> <p><詳細> 夏のプール遊びに併せてどろんこ遊び、ボディペインティング、フィンガーペインティング、色水遊び等を展開し自由な表現を楽しんでいる。</p> <p>絵本、紙芝居の中から何度も繰り返し好まれている内容を言葉、歌、動作で劇遊びへと繋げ、友達と一緒に表現を楽しんでいる。</p> <p>園外保育で集めた自然物や身の回りの素材を自由に選び、必要な用具を整えて表現しやすい環境を作り創造的に表現できるような機会を設けたり、友達と協力して作品を作り上げる喜びが持てるような導入の工夫をしている。</p>	<p>夏ならではの遊びを友達と楽しむように指導計画に盛り込み、3～5歳児は、泥んこ遊びやボディペインティングで遊んでいる。(月指導計画や、保育日誌で確認した。)</p> <p>クリスマス会で行う劇などは、4月位より、お話しCDを繰り返し聞いている。また、劇遊びでは、様々な役を演じて、セリフのやり取りを楽しめるようにしている。(年間指導計画や、保育日誌等で確認した。)</p> <p>5歳児クラスでは、プール開きで使う舟を、6グループに分かれて、ペットボトル2本を使って製作している。また、5歳児クラスで話し合っ、ピーターパンの4つのシーンを、協力して作製するように、保育士が働きかけている。(製作品の内容や、年間予定表、保育日誌で確認した。)</p>
<p>生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>日々の保育の中でピアノやオルガン、保育士の歌に合わせてリトミックをしたり様々な場面で手遊びをリズムに合わせて行っている。</p> <p>体操や運動遊び等で発達に応じ身体を使った遊びの楽しさを知らせている。</p> <p>散歩や戸外での遊びの場面で小動物や昆虫、植物に親しみ関心を育めるようにしている。</p> <p><詳細> 子どもたちの関心のある動物や生き物の模倣をするリトミック遊びや、集合して次の活動の合間の手遊びなどで楽しく遊びを展開している。</p> <p>朝の自由遊びでは体操やリズム遊びで身体をのびのび動かしたり、幼児クラスは運動遊びカリキュラムから年齢に応じた運動遊びを取り入れている。</p> <p>散歩の途中での発見を大切に昆虫や小動物への愛着を育む機会を持ったり、植物の栽培を行ったり園庭でのだんご虫探し、虫取り等身近な物への関心が広がるよう何気ない場面での言葉かけや援助をしている。</p>	<p>年間計画にリトミックを取り入れ、幼児クラスは2つのグループに分かれて、ピアノなどの伴奏に合わせて行っている。手遊びは、幼児では、紙芝居の前に行っている。乳児では集中力を養うために、年間計画に手遊びを取り入れている。(ホールや保育室の様子、月指導計画等で確認した。)</p> <p>幼児の朝の運動は、子ども達が揃ってから、ラジオ体操を含めて、常に2、3曲実施している。3～5歳児は、「運動遊びカリキュラム」を年間計画に取り入れ、発達状況や季節に合った運動を行っている。(月指導計画等で確認した。)</p> <p>天気の良い日には、積極的に園外活動を取り入れ、5歳児は、それぞれ小図鑑を持って虫探しをしたりしている。4歳児は、かぶと虫の幼虫を育てている。園庭では、うさぎ、鶏が飼育されており、自然と触れ合い、生き物を大切にしている。(園庭の飼育の様子や、保育日誌等で確認した。)</p>

<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>畑や園庭での植物栽培を行い、植物の生長の不思議さを感じたり収穫の体験をしている。</p> <p>クラスで昆虫の飼育を行ったり、散歩を多く取り入れて昆虫や植物に触れる機会を持っている。</p> <p>身近な社会の事象に関心が持てるように体験したり、触れる機会をもっている。</p> <p><詳細></p> <p>年間を通して計画的に園専用の畑や園庭でのプランターや花壇等を利用して植物の栽培や収穫を行い、植物の生長の不思議や喜びを育てている。</p> <p>散歩の時や園庭遊び時に身近な草花、虫に関心を持たせ、図鑑で調べたりクラスで昆虫の飼育を行い様々な好奇心をそだてるようにしている。</p> <p>社会事象（虫歯予防、七夕、防災の日、七五三、勤労感謝の日、クリスマス、正月、どんど焼き、節分、ひな祭り）や季節の移り変わり、気象の変化等の自然事象に関心が持てるよう指導計画に立案し体験したり触れる機会を持っている。</p>	<p>畑や園庭で野菜や花を栽培して、生長観察を行う中で興味を育み、収穫に期待、喜びが持てるように保育士が関わっている。園の畑が遠いため、3歳児は、プランター中心に栽培をしている。（園庭の植物の様子や、写真、保育日誌等で確認した。）</p> <p>天気が良い日は、散歩を行っている。4歳児は、かぶと虫を飼育している。植物や昆虫の世話を通じて、その生長、変化などに感動し、動植物と自分達との生活の関わりについての、感謝や生命を尊重する気持ちを育てている。（保育室の様子や、月指導計画、保育日誌で確認した。）</p> <p>天候や自然の変化に気付いたり、関心を持つなど、好奇心や探究心が満たせるようにしている。四季それぞれの行事を通じて、地域で働く人に触れ合い、理解と感謝の気持ちが育めるようにしている。（月指導計画や、写真等で確認した。）</p>
--	--	---

<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>楽しい雰囲気の中で食事ができるようにしている。 食育やクッキング保育を通して食べ物への関心を育み楽しく食べる体験を持っている。 一人ひとりの状況に合わせてトイレでの排泄に誘い、排泄が見られた場合は褒めて自信を持たせ排泄習慣が育めるようにしている。</p> <p><詳細> 食欲は個人差があるので一人一人の食事量を把握し無理強いせず楽しく食べられるようにしている。全く食べられない食品でも一口だけでも食べられた場合は褒めて食べる意欲へと繋げている。誕生会のホール会食やお弁当の日の園外保育での食事など、雰囲気を変えて楽しく食事ができるようにしている。 畑で野菜を栽培し収穫した物を調理する事で、食欲も増し意欲的に食べられるような機会を持っている。 トイレトレーニングのタイミングについては保護者と連絡を密に取り合い一人ひとりの状況に合わせて進めている。懇談会等で保護者へ情報を提供し参考にさせていただいている。園内では個別に排泄間隔を把握し無理強いすることなくトイレへ誘い、排泄が出来た場合は充分褒めて成功体験として感覚を印象づけることで排泄の習慣へと繋げるようにしている。</p>	<p>食事は子ども達それぞれの体型にあったテーブルや椅子を使用している。食事の量にも配慮して、お代わりもできるようにしている。誕生会やお弁当の日を設け、食べることが好きになる取り組みをしている。(保育日誌等で確認した。)</p> <p>子ども達は、園の畑やプランターで、野菜作りに取り組んでいる。収穫した野菜でクッキングを行い、食への関心へと繋げている。5歳児は、包丁等の扱い方や危険性を繰り返し伝え、正しい持ち方や扱い方が身に付くようにしている。(給食日よりや、保育日誌等で確認した。)</p> <p>トイレトレーニングは、保護者と連絡を取り合いながら行い、個別に排泄間隔を把握している。1、2歳児は懇談会でトイレトレーニングについての情報提供をしている。トイレで排泄できた場合には、沢山誉めて、自信をつけるようにしている。(トイレの様子や、月指導計画、保育日誌等で確認した。)</p>
---	---	--

<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>自分で考え、試みる機会を持ち経験を積む事によって基本的な生活習慣が身に付くようにしている。</p> <p>当番活動の内容について考えたり、意欲的に行えるような工夫を持ち、折々で身の回りを整える機会を配慮している。</p> <p>実際に栽培している畑の野菜、給食食材等と身体の仕組みとの関係を分かりやすく知らせたり、食事と休息が大切な事を絵本や紙芝居等を利用して伝えている。</p> <p><詳細></p> <p>身体測定時の着替えを自分でやろうとする意欲を見守り援助している。虫歯予防のつどいを行い歯の磨き方や虫歯にならないための指導を行っている。一人ひとりの発達に合わせて基本的習慣が身につくよう児童票等で個別配慮を持っている。懇談会等で保護者へ働きかけ年齢に応じた生活習慣が身に付くよう協力を求めている。</p> <p>当番活動の内容を自分たちが決めることで、期待を持って体験し毎日行うことが生活習慣の自立への一助となっている。節目の時期の大掃除等でロッカーの整頓や部屋掃除、洗濯のお手伝い等を体験し皆で協力して環境の整備を行っている。</p> <p>食育活動の一環としての野菜栽培やクッキング保育、給食食材を利用して身体の仕組みと食事の関係を知らせている。又午睡前や活動の合間に絵本、紙芝居等で休息の重要性を伝えている。</p>	<p>1歳児では、言葉かけや援助の方法を工夫して、着脱の方法が身に付くようにしている。不完全でも、できた時は誉めて、自信へと繋がるようにしている。虫歯予防のつどいを通じて、歯の磨き方の指導を行っている。クラスだよりを通じて、家庭とも連携している。(保育室での様子や、クラスだより、月指導計画等で確認した。)</p> <p>当番活動の内容は、子ども達で話し合っていて決めている。当番表も、2、3歳児は自分達の顔を描いて、日めくりにして意識付けをしている。(月指導計画や、クラスだより、保育日誌で確認した。)</p> <p>栽培・食育年間予定表に沿って、3～5歳児は、栽培、クッキングに取り組んでいる。植物の生長への関心を深め、水やりや草取りを通じて、食べ物への感謝の気持ちが持てるようにしている。収穫したものを食体験することで、喜びや自分の体の仕組みと食べ物に関係に関心が持てるようにしている。休息の必要性についても、紙芝居や絵本を通じて伝えている。(紙芝居や絵本、当番活動の様子、給食だより等で確認した。)</p>
---	--	---

大項目3 保育園の特徴

事業所から自己申告された内容について、事実確認を行った結果です

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表しています)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>運動遊びカリキュラムによる体育遊び(体操や乾布まさつによる体力づくり)。様々な素材を使った遊びの工夫や感性を育てる保育。 畑での野菜栽培。</p> <p><詳細> 幼児クラス別運動遊びカリキュラムにより毎月毎に計画を立案し実践の反省を行っており、実践を通して体力向上を図っている。又朝の体操や給食後の乾布まさつを行い生活の中で健康習慣が養えるようにしている。 具体的保育内容の年間予定表を指導計画の他にクラス毎に作成し、保育活動が調和のとれた内容になるようにしている。日案にバランスよく盛り込み実践している。年長児を中心に四季折々の野菜栽培を行い、自然の中で土に触れる体験を通して植物の生長への関心を育て、クッキング保育を行い食育へと繋げている。</p>	<p>幼児クラスでは、「運動遊びカリキュラム」を月案に取り入れている。病気などへの抵抗力を高めるために、毎日、乾布まさつに取り組んでいる。(保育室やホールの様子、年間指導計画等で確認した。)</p> <p>各年齢毎の年間計画の他に、クラス毎にその時期に応じて身につけたい内容や行事、散歩等が詳細に予定表に盛り込まれている。(年間指導計画等で確認した。)</p> <p>4、5歳児は、畑でトウモロコシや大根等を栽培して、観察や水やり、草取り、クッキングを行い、食べ物への関心を高めている。(栽培・食育年間予定表や、写真等で確認した。)</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>障害児保育については定数以上の常勤専任保育士の配置を行っている。 乳児保育は担当制にして個別配慮が行き届くようにしている。 長時間保育は専任の保育士を配置し保育をしている。</p> <p><詳細> 障害児保育においては月指導計画に個別に配慮点を記入し、専任の保育士が個別にきめ細かく対応するとともに家庭と連絡を密にとり園での様子を伝えている。他の専門機関と連携をとり、より良い発達につながるよう図っている。 乳児を担当制にすることは母親に替わる保育士との信頼関係をきちんと築き、将来人への信頼関係を築くためにも大切な条件と思われる。個別の指導計画を立てるなど発達を細やかに援助できるようにしている。毎日連絡帳を記入し家庭と健康状態を密に連絡しあっている。 長時間保育では園児の疲れや情緒面を配慮し専任の保育士を年齢毎に分けてゆったりと保育が受けられるよう図っている。</p>	<p>障害を持つ子どもを受け入れており、特に配慮の必要なこどもも含めて、現在、3名の専任保育士が増員され、保育士が1対1で関わりながら保育している。(保育室での保育士の関わり方の様子や、月指導計画等で確認した。)</p> <p>乳児は、特定の保育士との関わりにより、子どもの情緒を安定させ、きめ細かい対応が行えるように、担当制を取っている。個別支援計画の作成や連絡帳の記載、個人面談も担当している。(保育士の関わり方の様子や、連絡帳等で確認した。)</p> <p>19時までの長時間保育は、正規職員その他、非常勤職員8名が交替で勤務している。園児がゆったり保育が受けられるように、18時までの時間は、0、1歳児、2、3歳児、4、5歳児に分かれて保育している。(保育士の勤務状況や、遅番ノートで確認した。)</p>

<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関する特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>アレルギー食の対応をおこなっている。離乳食は家庭の状況を基にすすめている。病後児には無理のない個別配慮をしている。</p> <p><詳細> 入園面接時にアレルギー疾患の有無を確認し、アレルギー疾患のある場合は除去が必要との医師の指示があれば申請を受け、保護者と面談し除去の方向を決め実施している。保育士間の連携をとり誤って喫食しないようにしている。 離乳食は入園時に家庭の状況を聞き取り保護者に給食初日に立ち会ってもらい、家庭の進み具合に応じて無理なく進めている。離乳食個別表を作って栄養士と保育士が連絡を密に体調を見ながら離乳食を提供している。 病後児には前日までの健康状態によって戸外活動を控えたり検温をまめにしたり、下痢症状のある子へは調理形態を変えた個別食の対応を行っている。医師の指示があれば与薬を行う。</p>	<p>アレルギー食への対応は、「食物アレルギーによる除去食」の申請を行って、医師の記載したアレルギー調査書を基に保護者と園長、栄養士、担任で面談を行っている。面談結果は記録されている。(除去食申請書綴り等で確認した。)</p> <p>離乳食は、入園時に家庭の様子を聞き取り、初回は保護者の立ち会いで、主食や副食の形態をチェックしてもらっている。(保育室での離乳食の様子や、こんだてひょう等で確認した。)</p> <p>病後児には、それぞれの健康状態に合わせて、検温をこまめに行ったり、外遊びを控えたり、個別の対応を行っている。与薬については、日本保育園保健協議会の指針に基づいて取り扱っている。(健康マニュアル等で確認した。)</p>
<p>食に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>畑での野菜栽培を食育に繋げている。保育の中で食事と身体との関係を知り食べることへの関心や意欲を育てている。和食メニューを多く、季節感のある給食を提供している。</p> <p><詳細> 2月じゃがいも苗植え、5月夏野菜種まき、6月じゃがいもの収穫、7月夏野菜収穫、9月大根種まき、10月さつまいも収穫、12月大根収穫と年間を通してクラス毎に栽培計画を立て、収穫した野菜をお泊り保育やクッキング保育で調理し楽しく食べる事で偏食が減ってきている。 幼児クラスは栄養士が作成するひらがな献立を保育室に掲示し、子どもたちが関心を持てるよう工夫したり、絵本や紙芝居を利用して食べることの大切さを指導している。 四季折々の旬の食材を献立に盛り込み、和食のメニューで栄養バランスの良い給食を工夫している。食材は当日業者から納入した新鮮なもので、産地のはっきりした国産のものを使用している。</p>	<p>栽培・食育年間予定表に沿って、野菜作りを行っている。5歳児クラスは、今年、大根 200 本、じゃが芋 47.5kg も収穫があった。暑い夏の草取りも、お泊り保育のカレー作りを励みにして頑張れるように、保育士が働きかけている。野菜嫌いも減っている。(栽培・食育年間予定表や、クラスだより等で確認した。)</p> <p>幼児クラスに掲示された「ひらがなこんだてひょう」を当番の子ども達が、クラスの前で発表して、食べ物への関心を促している。栄養士からの食育指導や、絵本や紙芝居を利用して、食への関心を高め、食べることの大切さを指導している。(ひらがなこんだてひょうや、絵本等で確認した。)</p> <p>和食メニューで、旬の食材を献立に組み入れている。食材は国産の産地のはっきりした品を近隣の業者から取り寄せている。調査日の給食でも、残している様子は見られなかった。魚の苦手な子どもには、魚を少なくする配慮を行っている。(給食の様子や、よていこんだてひょうで確認した。)</p>

<p>家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>家庭と園との間で連絡しあう為の連絡帳の使用。 懇談会と個人面談の開催。 印刷物による家庭連絡。</p> <p><詳細> 特別な伝達事項（健康不良、怪我等）がある場合送迎時に担任が保護者へ直接伝える。0, 1歳は毎日連絡帳で健康状態について細かく家庭と連絡しあい、園の生活が安定して送れるようにしている。2歳は前半園の様子を個々に知らせ、後半は幼児クラスの記入方法に移行する。幼児クラスはその日の保育活動をクラスボードに記入し送迎時に保護者に見ていただいている。個別に知らせることがあれば連絡帳を使用している。 懇談会を年2回開催し園やクラスへの要望をアンケートでいただいたり年2回個人面談を行っている。 園だより、クラスだより、保健だより等で園の様子や情報の提供を行っている。</p>	<p>0, 1歳児クラスは、家庭と園との生活のつながりを大切にして、毎日連絡帳に園生活の様子を記入している。2歳児後半からは「クラスボード」に記入し、玄関前に掲示している。個別に知らせることがあれば連絡帳を使用している。（クラスボードの掲示や、連絡帳で確認した。） 子ども達のより良い成長を目指し、家庭と園とが共通理解し、協力体制を作るため、懇談会、個人面談を年2回開催している。さらに、おたよりアンケートも行って、要望や意見を積極的に聴取し、各クラス懇談会アンケート結果として、フィードバックしている。（園のしおりや、懇談会アンケート等で確認した。） 園だより、クラスだより、予定献立表、給食だより、保健ニュースで、情報提供に努めている。（園だよりや、クラスだより等で確認した。）</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>おおば子育て広場の開催。 中高生との交流と職場体験の受け入れ。 親子広場（母親教室）の開催。</p> <p><詳細> おおば子育て広場は毎月1回園のホールを地域の母子に開放し、子育てアドバイザー2名が見守る中で子ども達が伸び伸び遊んでいる。母親同士が情報交換をしあったり子育てのアドバイスを受ける場面もある。 近くの藤沢市滝の沢中学の2年生全員が家庭科の保育の授業の中で園児と交流し、子どもの発達や生活について学習している。その他市内の中学校の職場体験も要請があれば受けている。 年1回講師を招いて子どもの健康や食事についての母親教室を開催している。医師、栄養士等の話しや母親の質問を受け園長が子育てのアドバイスをする。給食体験も合わせて行っている。</p>	<p>「おおば子育て広場」が、毎月、子育てアドバイザーが2名参加して、開催されている。母親同士の情報交換や保育相談を行っている。（子育て広場年間計画や、パンフレット等で確認した。） 近隣の滝の沢中学生を、家庭科授業で受け入れている。職場体験も、要請により、受け入れ交流をしている。（中学生交流日程や、職場体験学習依頼文綴りで確認した。） おおば親子広場が年1回、医師や栄養士等を講師として開催されている。園長や子育てアドバイザーによる保育相談や給食体験も行っている。（おおば親子広場内容報告や、参加者名簿で確認した。）</p>